

## 28. 熊本大学グローバル教育カレッジ（旧国際化推進センター）改善計画書

領域	改善計画（H27. 3. 31現在）	改善状況①（H27. 12. 1現在）	改善状況②（H28. 12. 1現在）
研究	（法人評価までに改善する計画） 国際化推進センターを発展的に改組して平成27年3月1日に設置したグローバル教育カレッジでは、新たに理系・文系分野の専任教員及び特任教員を配置することとしており、今後カレッジ教員の研究活動を活性化するため、科学研究費をはじめとする外部の競争的資金の申請支援を実施する。	グローバル教育カレッジの教員として、理系・文系分野の専任教員（教授2名）及び特任教員8名を採用・配置した。科学研究費その他の外部資金による研究活動については、カレッジ固有の事業に影響のない範囲内における応募申請のための支援を行った。	グローバル教育カレッジの教員のうち、特任教員は教育業務専従であるが、専任教員に関してはグローバル教育カレッジにおける優れた研究の推進と外部資金獲得強化を目指すために、その支援を引き続き充実させる。
社会貢献	（法人評価までに改善する計画） スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU事業）の構想の中核を担うグローバル推進カレッジ（国際化推進センターを発展的に改組）では、グローバル人材の育成等に取り組むことにより、地域社会のグローバル化を牽引することを目的の一つとしている。カレッジでは、地域にグローバルな学びの場を提供するオープン教育センターの体制強化を図っており、高大連携による先取り履修、早期海外留学及び大学院における海外連携教育までの一貫したグローバル教育を実施することにより、地域や国際社会のニーズ・課題を社会貢献活動に反映できるようにする。	学部学生や留学生等を対象とした英語によるリベラルアーツ等の科目20科目以上及び日本語・日本文化等の科目10科目以上を新たに提供するとともに、早期グローバル教育のための高大連携の取組として、留学生と地域の高校生との交流活動や海外留学に関する情報提供などの取組を行った。	学部日本人学生や交換留学生を対象に、英語の授業科目である「Multidisciplinary 科目群」として平成28年度は30科目を提供するなど、グローバル教育カレッジによるグローバル教育提供の機能は拡充している。また、グローバル教育カレッジのオープン教育センターの役割を充実させるために、カレッジ所属の教員や事務支援のコーディネーターが様々な形で協働して取り組みを支え、SGU構想のポイントである地域の高校・高校生との連携を主とした多くの事業（「熊大グローバルYouthキャンパス事業」）を平成28年度は実施した。それにより、地域社会のグローバル化活動の推進と波及に著実に貢献している。
	（2年間で改善する計画） 地域の高校生等に対する早期グローバル教育、一般外国人に対する語学・交流支援により、地域に根ざすグローバル人材の育成など社会のニーズに応じた貢献活動を展開する。	地域の高校生等に対する早期グローバル教育として、英語による出前事業や留学経験者による説明会の開催等を行った。地域に根ざすグローバル人材育成のための取組として、官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム「地域人材コース」の採択を受け、平成27年度、1人の学生を派遣した。	SGU構想における地域連携戦略の一つである「熊大グローバルYouthキャンパス事業」は、平成28年度は本学の日本人学生や留学生とグローバル志向を持った地域の高校生との交流事業を幅広く手掛け（「留学生とMeet&Greet」サマーフェスタ、「Open College Day」熊大日本人学生の「留学成果発表会」等）、1年間の高校生合計参加者目標数250名を越える283名を達成し、事業拡充の顕著な成果がみられた。
国際化	（法人評価までに改善する計画） 本学のSGU構想では、グローバル教育カレッジ（国際化推進センターを発展的に改組）が提供する英語による教養・リベラルアーツ科目（グローバル科目）の拡充により、学部における英語だけで卒業できるコースの設置に向けた環境を醸成する。FDや人事面については、国際公募による国際通用性の高い教員の採用を促進するとともに、FD研修に参加した教員が英語による授業科目を担当するなどグローバル教育の実施活動に積極的に参画する仕組み作りを検討する。留学生の入試については、英語の外部試験のスコアを活用するとともに一括して海外入試を実施するなど、入学者増のための方策を検討する。	学部教育において、平成29年度から文学部・法学部・理学部及び工学部に「グローバルリーダーコース」を設置することにより、国際通用性の高い履修設計や海外留学を可能としている。大学院医学教育部及び自然科学研究科では、TOEFL（Test of English as a Foreign Language）及びIELTS（International English Language Testing System）等の外部英語試験のスコアを入試に活用している。また、大学院医学教育部では、インターネット面接による海外入試を実施し、外国人留学生の利便性を向上させている。平成27年度「グローバル教育の推進のための海外FD研修」においては、研修参加者への英語による授業科目の担当を必須化して開催し、5人の教員が研修を受講した。	英語による授業科目である「Multidisciplinary 科目群」を平成28年度は30科目を提供するなど充実が図られているが、英語コースの提供については、SGU構想の本学の今後の方針としていかに対応していくか検討中である。グローバルFDは平成22年度より27年度まで毎年継続しており延べ98名の参加があるが、平成28年度は熊本地震の影響により年度末に実施を計画中であり、今後の教育のグローバル化対応強化のために取り組みを継続する。「グローバルリーダーコース」では平成28年に新たな特別選抜を初めて実施したが、グローバル教育カレッジ単独ではなく全学的な課題として、多面的な入試の拡充について引き続き展開方策を検討していく。学部レベルの現地型海外入試については、その導入に関して平成28年度は企画・調査中である。
	（2年間で改善する計画） 国際通用性の高い教育体制を構築するため、クォーター制導入による学事暦の国際化対応を全学的に推進する。このため、グローバル科目を担当する教員の採用、育成や学生の国際流動性を促進する多角的な取組を組織的に展開する。留学生への財政的支援については、授業料免除や奨学金の付与等を渡日前・入学許可前に伝達する制度を整備する。教員、事務職員の国際化については、外国の大学での学位取得や外国での教育研究歴・職務経験を重視した採用を行うとともに、海外FD・SD研修等を通じた教授力・コミュニケーション力の強化を組織的に行う。	学部教育において、海外の多様な学事暦に対応するクォーター制を導入するとともに、シラバスの英語化やナンバリングの推進により、人材の国際流動性を促進する教育体制を構築した。留学生への財政的支援としては、日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度で平成26年度6件、平成27年度7件が採択され、314人も留学生受入が可能となった。	クォーター制については、平成28年度から教養科目の一部に試行的に導入されており、SGU構想における全学課題として、平成29年度は全学共通教育において導入される計画で、その後の計画は検討中である。同じく全学課題である、授業料免除や奨学金の付与等を渡日前・入学許可前に伝達する制度は実施済みである。また、留学生増加のための助成や渡日前入試等の充実や、教職員のグローバル対応力強化に関しては、外部資金の獲得増による奨学金の充実、グローバルSD・FDの持続的な実施など一定の成果をあげてきているが、今後の更なる改善に向けて、全学的に方策を検討中である。
その他（教育研究支援）	（法人評価までに改善する計画） 国際化推進機構の改組により平成27年3月1日に設置したグローバル推進機構により、全学的なグローバル戦略の策定及び実施を図る。また、国際化推進センターの改組により同じく平成27年3月1日に設置したグローバル教育カレッジにより、グローバル推進機構が策定したグローバル教育の推進支援、外国人留学生の修学等支援及び地域社会のグローバル化推進のための具体的取組を実施する。	グローバル推進機構及び機構の中核を担うグローバル推進カレッジにおいて、留学生受入や日本人学生の海外留学のための支援を行うことともみ、グローバル科目の提供や日本語・日本文化教育の拡充、地域の高校生等を対象としたグローバル人材の育成等に積極的に取り組んだ。	SGU構想の実現を軸とした本学のグローバル化推進は、学長のリーダーシップのもとグローバル推進機構及びSGU推進本部の牽引により、平成29年度のSGU中間評価に向けて諸方針の再検討とともに取り組みの全学的な展開を行っている。一連の取り組みの中で、グローバル教育カレッジは、主な役割領域である英語による科目やグローバル課外活動の提供、日本語教育の充実及び地域の高校との連携による早期グローバル教育の提供を計画的に推進している。
	（2年間で改善する計画） SGU事業の拠点となるグローバル教育カレッジ施設を整備し、留学生と日本人学生と共に学び、交流する教育環境を実現する。	平成28年3月に「グローバル教育カレッジ棟」を整備し、留学生と日本人学生の修学、交流スペースを確保するとともに、地域のグローバル人材交流の場としても活用できるようハード面での充実を図った。	利用が開始されているグローバル教育カレッジ棟は、教室や教員研究室・事務室の稼働は勿論のこと、ラウンジ/ロビーが日々の学生交流の場として積極的に利用されているとともに、各種留学生プログラムの開閉講義式、懇親会、式典やミニイベントなどの会場として頻りに活用されており、本学のグローバル化活動のシンボルとして、情報発信の機能も果たしている。
その他（男女共同参画）	（法人評価までに改善する計画） グローバル教育カレッジ（国際化推進センターを発展的に改組）では、他部局の範となるべく、男女共同参画を念頭に置いた教員及びコーディネーターの採用、育児・介護支援制度の促進を図る。	グローバル教育カレッジの教員10人（専任教員2人、特任教員8人）の採用に当たり、男女共同参画推進も勘案して、女性教員6人を配置した。コーディネーター（有期雇用事務職員）12人の採用（継続雇用を含む）に当たっては、女性11人を配置した。	グローバル教育カレッジ所属の教職員に対しては、持続的に男女共同参画のための各対応・制度を適切に運用しており、職場環境のダイバーシティ推進を図っている。
管理運営	（法人評価までに改善する計画） グローバル教育カレッジ（国際化推進センターを発展的に改組）に置く兼務教員については、国際通用性の高い教育のグローバル化等、業務の明確化、集約化を図ることにより、カレッジの専任教職員と一体となって全学的なグローバル化を促進する体制を整備する。	グローバル教育カレッジの兼務教員については、平成27年度から、グローバル教育を中心とした教務・学生支援のための施策立案及び実施と、大学の国際交流戦略や国際的情報発信等を担う業務に分化し、カレッジ専任教員との協働によるグローバル化促進体制を整備した。	グローバル教育カレッジの兼務教員については、関連委員会等への参画とともにグローバル教育関係の諸行事の企画・実施に対して協力を行ってきってもらっている。一方、大学のグローバル化とグローバル教育カレッジの活動充実を更に図るために、現状の大学運営の仕組みと環境に適したグローバル支援体制のあり方について今後検討が必要である。